

B コマツカサススキ



日当たりのよい湿地やため池の畔に生えます。高さ80～120cmで、茎の断面は三角形で葉は細長く、8～10月に丸く集まった花をつけ、その後には果実となります。

B ケシンジュガヤ



日当たりのよい湿原に生える高さ10～20cmの小さな草です。7～10月に茎に2～3個のうす灰色の目立たない花をつけます。葉や茎に毛があります。

B マネキシングヤ



日当たりのよい湿地や湿原に生える高さ10～30cmの草で、7～10月に茎に2～3個のうす灰色の目立たない花をつけます。葉や茎に毛がありません。

B ギンラン



林の地面に生える高さ20～40cmのランの仲間です。葉を3～6枚出し、5～6月に茎の先に半分開いた形の数個の白い花をつけます。

B シュンラン



少し乾いた林に生えるランの仲間です。葉は長さ20～35cm、幅0.6～1cmで、3～4月に高さ20cmほどの茎の先にうす黄緑色の花を1個つけます。

B カキラン



日当たりのよい湿地に生える高さ30～70cmのランの仲間です。長さ7～12cmの葉をつけ、6～8月に茎の上の方にうす橙色の花を10個ほどつけます。

B コ克蘭



暗い林の地面に生える高さ15～30cmのランの仲間です。葉は楕円形で、先はとがります。6～7月に暗い紫色の花を5～10個つけます。

要 イワハリガネワラビ



川沿いの岩の上や岩壁に生える高さ30～60cmほどになるシダ植物です。軸の左右に細長い葉がつき、全体は長さ25～40cmの三角形の葉となります。

要 ナチシケシダ



湿った草地や林の縁などに生え、高さ1mほどになるシダ植物です。軸の左右に細長い葉がつき、全体は長さ10～50cmの細長い三角形の葉となります。

要 マツグミ



アカマツやモミなどの枝や幹に生え、水や栄養を分けてもらいながら育つ植物です。7～8月に赤色の小さな花をつけます。果実は丸く、秋に赤く熟します。

要 イスノキ



高さ20mになる木です。葉は長さ5cmほどで、虫こぶ(虫が寄生して葉の表面にできた小さなこぶ)がついていることが多いです。3～5月に目立たない花をつけます。

要 ハマウド



海岸に生える高さ1～1.5mの草です。茎は上のほうで枝分かれして、光沢のある葉をつけます。4～6月に白い小さな花が集まった花をつけます。

要 リュウキュウマメガキ



山地の日当たりのよい谷や斜面に生える木です。新しい枝にうす黄色の花をつけ、秋には橙色から黒紫色の2cmほどの果実が熟しますが、渋いです。

要 カワヂシャ



川岸や水路わきなどに生える高さ80cmほどの草です。5～6月に白やうす紫色の花をつけます。外来種のオオカワジシャは紫色の花をつけます。

要 コヤブラン



林の下に生えます。高さ20～40cmで、地面をはう茎で広がります。7～9月にうす紫色の花をまばらにつけます。果実が熟すと黒色になります。

要 ヒナザサ



湿地に生える高さ5～20cmほどの小さな草です。茎は地面をはって枝分かかれ、先端は立ち上がります。8～10月、その先に目立たない花をつけます。

要 ハチジョウススキ



海岸の草地に生えます。高さ1.5～2mで、ススキに比べて茎は太く、葉の幅も広く、葉の縁はざらつきません。秋にススキに似た花をつけます。

要 シオクグ



塩水の出入りする海岸や河口の湿地などに生えます。高さ30～60cmで、葉は幅1.5～3mmと細く、4～7月に目立たない花をつけ、果実となります。

今 ハマハナヤスリ



日当たりのよい砂地や草地、河原などに生える高さ7～20cmほどのシダ植物です。4～11月に見られます。胞子をつける葉を別に出します。

今 オオイタビ



林の縁などに生えるつる植物です。枝から根を出して、木の幹や岩にはりつきます。秋にイチジクのような紫色の実(果のう)をつけます。

今 サイコクヌカボ



湿地や田んぼのあとなどに生える草丈50cmほどのタデの仲間です。たくさん枝分かかれして茎の下の方は地面をはいます。夏から秋にかけて小さな花をつけます。

今 ジュンサイ



ため池などに生える水草で、楕円形の葉を水面に浮かべさせます。夏に暗い赤色の1.5cmほどの目立たない花をつけます。芽はゼリー状で食用になります。

今 ヒツジグサ



池や沼に生える水草で、葉や花を水面に浮かべさせます。夏の昼間にスイレンに似た白い美しい花を咲かせます。末の刻(午後1～3時)に咲くことが名前の由来です。

今 ミソナオシ



林の縁や道ばたに生えます。葉は3枚セットで、夏から秋にうす黄色のハギに似た花をつけます。豆の形をした実にはかぎのような毛があり、服にくっつきます。

今 ハマビシ



海岸の砂浜に生えます。根元から四方に茎を出し広がります。夏に葉のつけねに小さな黄色い花をつけ、果実は1cmほどで丸く、するどいとげがあります。

今 ミズスギナ



ため池に生える水草で、水の量にあわせて水の中の葉、水の上の葉など葉の形が変わります。8～10月に葉のつけねに白い小さな花をつけます。

今 ウンラン



海岸の砂地に生えます。高さ20cmほどで、砂地をほうように生えます。葉は厚みがあり、8～10月にうす黄色の花をつけます。

今 フサタヌキモ



ため池や湖などに生える水草で、食虫植物です。葉はやわらかくタヌキの尾に似ていることが名前の由来です。小さく黄色い花を3～5個つけます。

今 マルバオモダカ



ため池や水田などに生える水草です。葉を水に浮かべる場合と水から上に出す場合があります。夏には茎をのぼし花びら3枚の白い花をつけます。

今 トチカガミ



ため池、湖、水路などで、水に浮かんでいる水草です。葉は丸く、葉の裏に浮袋があります。夏から秋に3枚の花びらをもつ白い花を咲かせます。

今 ミズアオイ



水田や湿地に生えます。ハート形の葉をつけ、葉より上に、夏から秋にかけて青紫色の花をたくさんつけます。コナギという田んぼの雑草によく似ています。

今 ホシクサ



高さ15cmほどで、水田や湿地に細長い葉がまとまって生えます。夏から秋に茎の先に白い小さな花をつけ、その形が星に似ていることが名前の由来のひとつです。

<お知らせ>

2019年(平成31年)3月公表の「明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～」掲載の次の種について、下記のとおり変更を予定しています。本ガイドブックでは変更を反映して掲載しています(掲載種数はレッドリスト掲載数です)。

- カスミサンショウウオ
→セトウチサンショウウオ
(種の細分化による種名変更)
- ドクゼリ→削除
(選定根拠となった明石市での確認記録が明石市外の記録であることがわかったため)

明石のハマビシ

ハマビシは海岸の砂浜などに生える植物で、昔は播磨の海岸にも群落をつくっていました。実にとげがあり、漁師が網を干すときに引き抜いていたという話が残されています。

しかし今ではハマビシは、国や兵庫県のレッドリストで絶滅危惧種とされ、各地で絶滅が心配されています。

明石の海岸でもかつてはハマビシが生育していたことが、残された記録や標本からうかがえます。1922年に植物学者の牧野富太郎が明石の浜でハマビシを採集した記録がありますし、1959年に明石の海岸で採られた貴重な標本が、人と自然の博物館に残されています。しかしその後、埋め立てなどにより、兵庫県内の多くの海岸ではハマビシは見られなくなりました。

現在、県内で自生のハマビシが見られるのは淡路島の富島ですが、明石市の藤江海岸には、海岸整備のときに種が持ちこまれたと考えられているハマビシが生育しています。これは自然に生えたものではないので、明石市レッドリストではハマビシは「今見られない」の категорияに区分しています。

明石いきものコラム



藤江海岸のハマビシ保全エリア

表紙写真（上から）：
タヌキ
ナミルリモンハナバチ
サギソウ、トノサマガエル
望海浜の風景
ゴクラクハゼ、シロチドリ
裏表紙写真：
ハッチョウトンボ



明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ ガイドブック

2022年（令和4年）3月

編集発行 / 明石市 市民生活局 環境室 環境創造課

兵庫県明石市大久保町松陰 1131

電話：078-918-5786 FAX：078-918-5586



SDGs 未来安心都市・明石
～いつまでも すべての人に
やさしいまちを みんなで～